

# 分科会 14

## 家族のピアサポート ～家族の語り合い～

貫井信夫（NPO 法人千葉県精神障害者家族会連合会／みんなねっと家族学習会企画 P 委員）

三上彬（なの花会：千葉県館山市）

中村義光（さくらの友の会：千葉県野田市）

犬石志保子（オアシス家族会：千葉県船橋市）

植木チアキ（NAMI（全米精神障害者家族会連合会）サウスベイ日本語サポートグループ）

国分栄樹（つくし会：千葉県木更津市／みんなねっと家族学習会企画 P 委員）

### 【分科会の趣旨】

家族の学び合い・支え合いは家族会の原点といえる。同じ体験をしている家族が、本音で語り合うことにより、家族が元気になり、本人の回復にもよい影響がえられる。地域の保健所などの協力を得ながら、一般の孤立した家族に呼び掛けて、このような場の提供をし、実績をあげている家族、会の活動を紹介します。併せて、長年、家族会の事業として、「家族による家族学習会」に取り組んでこられ、家族会が活性化した活動について紹介します。

また、在米の日本人家族から、NAMI サウスベイ日本語サポートグループを立ち上げ、その後、取り組んでおられる家族会活動を紹介します。

### 【内容とプログラム】

13:00～13:10 主催者の挨拶 貫井信夫（NPO 法人千葉県精神障害者家族会連合会）

13:10～13:30 「家族による家族学習会」‘家族の語り合い’の意味について

三上 彬（なの花会（千葉県館山市））

13:30～13:50 私たちの「家族による家族学習会」 ～孤立した家族とともに～

中村義光（さくらの友の会（千葉県野田市））

13:50～14:10 「家族のための交流会」を通じた家族会活動 ～心の病気の語り合い～

犬石志保子（オアシス家族会（千葉県船橋市））

14:10～14:30 在米の日本人家族の家族会活動 ～NAMI での学び合いと分かち合い～

植木チアキ（NAMI サウスベイ日本語サポートグループ）（インターネットで参加）

休憩（10分）

14:40～15:30 グループでの意見交換 進行：国分栄樹（つくし会（千葉県木更津市））

参加者が、グループに分かれて、

‘家族の語り合い’の意味について、話しあい（意見交換）を行ないます。

分科会参加者 44 名（内 家族約 7 割、支援者約 2 割、当事者約 1 割

講演の後、残った参加者 35 名が 5 グループに分かれて、意見交換を行った。

テーマは、「家族の語り合いの意味について」

以下は、各グループでの話し合いの記録です。家族から、家族会の意義、家族の語り合いの意味について発言が多かった。また、支援者から、家族会の支援をしたいという心強い発言もあった。

様々な発言があり、考えさせられることが多かった。

## Aグループ

- ・仲間と繋がるのが大切。最初は泣いていた人が、繰り返すことで変わっていく。
- ・語り合いで“安心感”得られる
- ・家族会の意義。皆が聴いてくれた。一を言えばすべてわかってくれた。救いになっている。  
家族学習会も参加した。セミナー終わった後つながり強い
- ・病院で働いている。もっと家族を支援したいと思った。  
自分自身、病気の経験があり、ピアグループを作った経験がある。
- ・息子は大人になってから発病した。息子は生命の危機もあった。急性期の病状では、なかなか家族会のような繋がり紹介をしてもらえなかった。療養期の場合だと繋がれなかった。
- ・何とかしたいとことでの情報源が少ない。どういうふうに情報を得たらいいのか。

## Bグループ

- ・家族同士のピア支え合いで元気になっている
- ・3 障害混じった家族会を行っていたが、障害の違いが浮き出てしまった。当事者の障害を一緒にした方がピア感が高まる。
- ・家族会をするにあたり、①家族の語り+②知識を得る、この両輪が大切だと思う
- ・地元の家族会に所属しているが、日中のためあまり参加できない。  
海外の事例を見ると、手をかけ過ぎるのも当事者のためにならない。社会資源がない場合には、自分たち（家族）が作っても良いと思った。
- ・親があまりにも当事者を抱えすぎている。面倒を見過ぎてている。もっと当事者にやらせることが大事。
- ・今日、家族会があることを初めて知った。家族は病気を理解し、家族同士で考えるのが良いと思う。
- ・家族は当事者のことを良く知っているので、一緒に話し合った方がよい。
- ・母親は理解しているが、父親は理解をしようとしめない。時代背景もあり、理解する立場になるのがなかなか難しい。

## Cグループ

- ・家族（母）が病気になったときに、周りに病気を知っている人（知識）がいなかった。対処法が分からず命を守ることを第一に・・・、その時に家族会があったら助かったらなど。
- ・二つの家族会（病院・地域）に参加。家族会で S S T 考え方が 180 度変わる。
- ・NAMI（全米精神障害者家族会連合会）植木さんの話を聴いて、もともとアメリカでは保険制度がなく医療費が高い。アメリカでは本人が主体、家族は後回しになってしまう。
- ・病院で家族会をやっている。家族会に職員が入る意義について、模索日々悩んでいる。家族自身が元気でいられる方法を考えたい。お手伝いできることをみつけない。

## Dグループ

- ・病院での家族会でやっている。病院での家族会がテキストを使って体験を聴く方法とか、家族会の雰囲気とかが良い。
- ・親兄弟にも話せないことを本音で話し合う事で共感を得る。
- ・自分たちが当事者の関わりで良かれと思ってやってきた事。
- ・土曜学校があって1年間学習するところがある。
- ・家族会で親亡き後のことが話題になっている、地域活動支援センターとの繋がり。

## Eグループ

- ・1回/2週の5分間の受診では話せないことがある。病状の変化や薬がコロコロ変わることの対処を何処に求めたら良いのか、通院先のスタッフが提供して下さる。
- ・医療関係者につなげる力、発信する力をつけるのも家族。
- ・本人以外にも家族からの発信が力になる。
- ・薬剤師も資源であること。
- ・2極性の家族会がない。
- ・家族教室では参加したがる家族が多い。家族が良かれと思っていて伝えても、家族に伝わっていない。

## R F 2 0 1 8 分科会 1 4 の写真



左から貫井、国分、大石、ガイドヘルパー、中村、三上



植木（ロスアンゼルス）

